

信越化学工業株式会社

2025 年 3 月期第 2 四半期 決算説明電話会議要旨

日 時	2024 年 10 月 25 日（金） 16 : 00 - 17 : 00
開催場所	信越化学工業（株）
会 社 側 出 席 者	・ 代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・ 取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・ 常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・ 執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・ 広報部長 福井 真二
参考資料	2025 年 3 月期第 2 四半期 決算短信

* このメモは電話会議でお話した内容をまとめたものです。

【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- 2025 年 3 月期第 2 四半期（7-9 月期）
連結売上高： 6,685 億円（前年同期比 12%増）
営 業 利 益： 2,146 億円（前年同期比 12%増）
経 常 利 益： 2,231 億円（前年同期比 6%増）
当期純利益： 1,500 億円（前年同期比 2%増）
- 営業利益で前年同期比 12%増、当該期末に為替が円高に振れたが、経常利益で 6%の増益にて当該期を締めくくることができた。
- 営業利益の年間予想に対する 6 ヶ月間の進捗率は 55%。

[セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】：
 - ・ 北米国内の塩ビ需要について、7-9 月の国内販売は季節性にそった動きを示した。業界統計によれば、7-9 月の国内販売は 4-6 月比では 7%近く減ったものの、対前年同期比では 3%強伸びた。住宅着工件数は 8、9 月と 130 万戸の水準に盛り返し、住宅許可件数も 140 万戸水準を保てており、良い傾向。金融緩和によって来年、住宅需要が上向く動向が見えてきた。北米以外の市場では、中国からの輸出が止まらず需給が緩む中、市況は思わしくないが、値段の良いところで販売を確保している。
 - ・ ソーダの市況は、直近は一進一退なるも、総じて持ちこたえている。
 - ・ シンテックの新增設はついこの間完了し、生産を開始した。

- 【電子材料】：
 - ・ 市場の復調は一様ではなく、品種や用途ごとに、また客先ごとに異なっている。ウエハー需要の回復は口径や客先のウエハー在庫水準により、時期のズレがあるものの、回復は時間の問題であることに変わりはない。露光材料の需要は引き続き順調。ウエハーをはじめとする半導体材料の需要回復と技術進化による数量増を取り込み、収益の伸長を図る。
 - ・ 希土類磁石では、HDD 用途の復調が一段落する一方で、FA 用で回復の兆しが見え出している。
 - ・ すべての製品について、能力増強を適切に行い、また品揃えの拡充と高度化を推し進めている。
- 【機能材料】：
 - ・ シリコン製品の価格改定に引き続き取り組んでいる。加えて、これまで通り中国での販売も含めて、当社の強みである機能品・特殊品を伸ばしている。
- 【加工・商事・技術サービス】：
 - ・ 当セグメントの収益は引き続き安定している。

【補足説明（広報部長 福井真二）】

- 2025 年 3 月期の投資額は約 4,980 億円（三益半導体の公開買付の 680 億円も含む）、減価償却費は約 2,480 億円の見込み。
- 2025 年 3 月期業績予想における経常利益の為替感応度は、1 円の変動で US ドルは年間 46 億円、ユーロは年間 2 億円。

【質疑応答】

〈生活環境基盤材料〉

Q	シンテック 3Q（7-9 月）の業績について
A	・ 3Q の経常利益については、ドルベースで QoQ（前四半期比）、YoY（前年同期比）ともに減益になっています。 ・ QoQ での減益要因は、7 月の頭にハリケーンがテキサスに来襲し、フリーポートの工場が 2-3 日間停止したことと、モノマーの供給元の工場が相当期間停止したことによる減産が大きく影響しました。
Q	シンテックの 8 月以降の塩ビの動きについて
A	・ 海外は値段が思わしくないものの、市場は広いのでよい案件をとにかく拾っていくことをやっています。海外市況の見通しとして、これ以上の下落はないと見ています。

	・ 米国内では季節性が出ており、それに伴い市況が多少弱含むかどうかを注視しています。米国内の市況動向は、8月は下落し、9月はフラット、10月も値段は動かずフラットであると見ています。11月、12月は明言できる段階ではありませんが、価格を下げないように取り組みます。 ・ 米国向けの数量は、季節性の影響で11月、12月では多少の下振れが見込まれますが、その中でもシンテックはフル販売を継続し、世界中に販売を行います。新增設分の稼働と、この秋は大定修がないため数量は増えますが、きちんと売り抜いていきます。
Q	エチレン新工場の許可申請について
A	・ シンテックは、許可申請はエチレンだけでなく電解、モノマーについても行っており、審査を受けている最中です。現在は手続きを進めている段階で、投資決定はしていません。

〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの2Q（7-9月）の市場動向について
A	・ ウエハー市場全体では、数量は前年同期比、前四半期比ともに伸長しました。 ・ 口径別で伸びたのは300mm ウエハーで、好調な生成 AI 関連向けに牽引されました。200mm、150mm 以下の小口径については、回復の兆しはまだ見えていません。
Q	300mm ウエハーの3Q（10-12月）以降の見通しについて
A	・ 半導体デバイスの回復はAI向けが主であり、その他の分野についてはまだ重い状況が続いています。長期契約がベースとしてありますが、お客さまはウエハー在庫の増加を防ぐべく、購入調整を要望されています。
Q	200mm ウエハーの3Q（10-12月）以降の見通しについて
A	・ 200mm ウエハーは車載向けが最も多く、民生、産業向けなど幅広く使用されています。これら分野の需要低迷により、半導体デバイスは在庫調整に入っており、ウエハー需要は低調に推移しています。市況の回復はマクロ景気によるものと考えています。
Q	2Q（7-9月）セグメントの増益幅が大きかった理由について
A	・ 半導体ウエハーの増益要因としては、マーケットの回復に伴う数量増と製品構成による価格アップ、ならびに三益半導体の連結子会社化による利益の上乗せがありました。 ・ ウエハー以外のレジストなどの露光材料も需要が強く、数量増が増益に寄与しました。

Q	ウエハー以外の半導体材料の動向について
A	・ 当社が手掛けているレジストなどの露光材料は、先端の半導体デバイス向けとなります。デバイスの中で好調な製品向けに供給していることになり、その恩恵を受けています。
Q	設備投資額と償却費が乖離している理由と償却費が増えるタイミングについて
A	・ 半導体ウエハーにおいては、お客さまとの長期契約に基づいて設備投資を行っています。設備の長納期化に備えて早めの発注をしていましたが、納期が早まり前倒しで納入されています。結果として、設備投資額が前倒しで増加しています。しかし設備の償却が始まるのは実際に稼働してからですので、設備投資額と償却費の増加のタイミングに差が出ています。

〈機能材料〉

Q	2Q（7-9月）の業績について
A	・ 利益率は1Q（4-6月）と比べるとやや下がっています。その一方で、売上はある程度盛り返しているのは、機能品や付加価値の高い製品、特殊品を増やしながら、量をとりにいくことの両方を行っているためです。そういう努力を地道に続けている結果がこの数字に少しずつ表れています。

〈全 社〉

Q	今期の連結業績予想について
A	（上方修正しなかった理由について） ・ まずは基本的に当社の姿勢が慎重ということがあります。加えて、為替がかなり動いたこともあるので、注意して見なければいけないと考えています。こういったことを踏まえて上方修正はしませんでした。 ・ 営業利益の業績予想に対する進捗率は55%ですので、さらに業績の伸長を図るべく取り組みます。 ・ 為替前提の変更（10月以降：140円/ドル）で、業績予想が実質上方修正になっているかの判断は色々な見方があると思いますので皆さまにお任せします。
Q	資本政策について
A	・ 現金の使い方は、成長投資や事業買収、企業買収といった事業の拡張、成長に使わせていただくのが第一です。また、パンデミック等々のショックに耐えられる財務の力も大事です。それから、株主の皆さまへの還元をこれまで

	通り機動的に行うということです。これらを踏まえ、かつエクイティ・スプレッド*をある程度確保するために資本政策を念頭に置いて取り組みます。こういった取り組みは継続して行う必要があると思います。それによりボラティリティを下げ、資本コストも下げていくということです。
--	---

*エクイティ・スプレッド（％）＝ ROE（自己資本当期純利益率）－ 株主資本コスト